2024 年 03 月 12 日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【面白いアノマリーの例】

前回のコラムで、「アノマリー」について記述しました。

それで、「面白いアノマリーの例」を挙げておきましょう。

「大統領サイクル」という言葉があります。

今回は、「株式市場」で使われる「大統領サイクル」というアノマリーについて、記述します。

※外国為替相場でも、「大統領サイクル」というアノマリーが使われることがありますが、「株式市場」で使われるものとは異なります。

「株式市場」で使われる「大統領サイクル」というアノマリーとは、「米国株価は、米国の中間選挙の年がボトム（安値）で、大統領選挙の年まで上昇する」というサイクルがある、ということです。

もちろん、米国大統領の選挙や政策は、株式相場に影響を与えます。

大統領選挙の年は、景気を刺激して、「株高政策」を採る傾向があります。

米国の政治は、２大政党制で運営されており、大統領選挙については、米国株式が弱いと政権与党の大統領候補は選挙に勝てないでしょう。

景気が悪ければ不人気になるのは、どこの国でも同じでしょうし、「自明の理」です。

過去の大統領選挙で、父親のブッシュ大統領（第 43 代大統領）が再選に失敗したのも、それが原因でした。

++
しかし、私は、このアノマリーをさほど重要視していません。

ただ、ある程度、そういった傾向はあるのでしょうが、必ず、そうなるとは断定できない、と考えるからです。

株価を高くしたくても、その為に政策を発動しても、―――過去の日本を見てもわかるように、―――必ずしも、政策担当者の思惑通りに、ことが運ぶわけではありません。

それは、日本の政策が中途半端なだけで、米国は違う、という考え方もありますが・・・・。

++
++

「大統領サイクル」というアノマリーに従う、と仮定します。

アノマリーは、「米国株価は、米国の中間選挙の年がボトム（安値）で、大統領選挙の年まで上昇する」ということです。

となると、「一昨年（2022 年）が、米国中間選挙の年ですから、一昨年（2022 年）をボトム（安値）にして、現在は、今年（2024 年）の大統領選挙に向けて、米国株価は上昇サイクルにある」ということになります。

過去のチャートを振り返ると、概ね当たっているように見えます。

最近（2024 年 3 月現在）の米国株式のダウ・ジョーンズを見ると、最高値を更新して 39,000 ドル台を付けています。

このアノマリーに従うならば、この最高値付近でも買っておけば、今年（2024 年）は、さらに株価が上昇して利益を得ることが出来る、ということです。

「大統領サイクル」を信じるならば、この水準は「買い」になるわけです。

こういった考え方は、その通りになるかも知れませんし、ならないかも知れません。

私は、「大統領サイクル」を信じて、そう考えることはありません。

しかし、米国株式のブル派は、「そうあって欲しい」という願望を強弁して、きっとこのアノマリーを引用することでしょう。

もちろん、決して、その可能性を否定するものではありませんが・・・・。

++
++

（2024 年 03 月 12 日東京時間 15：25 記述）